

# 病害虫情報(第3号)6月予報

令和6年6月3日  
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463 - 58 - 0333  
ホームページ <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

## 【内容】

- I 6月の主な病害虫の発生予報、防除要否、使用する薬剤例 ..... 1  
【水稲、カンキツ、ナシ、カキ、ブドウ(大粒種)、キウイフルーツ、チャ、露地トマト、露地キュウリ、ナス、ネギ、スイカ、カボチャ、メロン】
- II 6月の気象予報と病害虫発生予報の根拠 ..... 10

- 農薬を使用する際は、必ずラベルの記載事項を確認し、遵守すべき基準を守り、飛散防止に努めましょう。
- 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。

※ 農薬に関する情報は、令和6年5月29日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

## I 6月の主な病害虫の発生予報、防除要否、使用する薬剤例

### 【水稲】

| 病害虫名             | 発生予報<br>(平年比) | 防除要否 | 使用する薬剤例<br>◆防除のポイント  |
|------------------|---------------|------|--|
| ヒメビウンカ<br>(縞葉枯病) | 並             | ○    | 【育苗箱施薬:ヒメビウンカ、イネミズゾウムシ】<br>アドマイヤーCR箱粒剤<br>[は種時(覆土前)～移植当日,1回] 50g/箱   |
| イネミズゾウムシ         | 並             | ○    | エバーゴルフホルテ箱粒剤<br>[は種時(覆土前)～移植当日,1回] 50g/箱   |
| ニカメイチュウ          | やや少           | ○    | 【育苗箱施薬:ヒメビウンカ、イネミズゾウムシ、ニカメイチュウ】<br>グランドオンコル粒剤 [移植3日前～移植当日,1回] 50g/箱<br>プリンス粒剤 [は種時(覆土前)～移植当日,1回] 50g/箱 等   |
|                  |               |      | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ イネ縞葉枯病(ヒメビウンカ)に関する防除情報を令和6年4月8日に発表している。</li> <li>◆ 縞葉枯病対策として、ヒメビウンカの防除は必須である。</li> <li>◆ ツマグロヨコバイの発生が多い地域では、アドマイヤーCR、グランドオンコル、エバーゴルフホルテを使用する。</li> <li>◆ 紋枯病、白葉枯病の発生が懸念されるほ場では、エバーゴルフホルテを使用する。</li> </ul>   |
| スクミリンゴガイ         | —             | △    | スクミノン [60日,2回] 1～4kg/10a<br>☞ 湛水状態で均一に散布し、散布後7日間は落水やかけ流しを行わない。<br><ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 取水口にネットや金網(目合い9mm以下)を設置する。</li> <li>◆ 移植後3週間、浅水管理を行う。水深を4cm以下(理想は1cm)にすることで実害がほとんどなくなる。</li> <li>◆ 詳細は以下のマニュアルを参照すること。<br/><a href="https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryou2/sukumi/attach/pdf/sukumi-4.pdf">https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryou2/sukumi/attach/pdf/sukumi-4.pdf</a></li> </ul> |

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

# 病害虫情報

(令和6年・第3号・6月)

神奈川県農業技術センター

## 【カンキツ】

生育: やや早(足柄地区事務所根府川分室: 普通温州)

| 病害虫名                       | 発生予報<br>(平年比) | 防除要否 | 使用する薬剤例<br>◆防除のポイント   |
|----------------------------|---------------|------|---|
| 黒点病                        | 並             | ○    | (予) ジマンダイセンまたはペンコゼブ水和剤<br>みかんを除くかんきつ:[90日,4回] 黒点病:600~800倍<br>みかん:[30日,4回],黒点病:400~800倍、そうか病:400倍   |
| そうか病                       | 並             | ○    | (予) イデクリーン水和剤[-,-] 400~800倍<br>+ クレフノン[-,-] 200倍 等<br>◆ 黒点病は散布後に積算降水量が250mmを超えたら、再度散布する。<br>◆ 黒点病は、伝染源である樹上枯枝を剪除し、園内に放置しない。<br>◆ イデクリーンは、マシン油乳剤との混用および14日以内の近接散布を避ける。 |
| ミカンハダニ                     | 並             | ○    | マシン油乳剤(97%,98%) 等   |
| カイガラムシ類                    | -             | ○    | ◆ マシン油乳剤は商品によって希釈倍数・使用時期が異なるので、ラベルの記載に従う。   |
| ミカンサビダニ<br>チャノキイロ<br>アザミウマ | -             | ○    | ハチハチフロアブル[前日,2回] サビダニ類:2,000~3,000倍<br>アザミウマ類:1,000~2,000倍<br>コテツフロアブル[前日,2回]:2,000~6,000倍 等  |

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

## 【ナシ】

生育: やや早(生産技術部果樹花き研究課: 豊水)

| 病害虫名              | 発生予報<br>(平年比) | 防除要否 | 使用する薬剤例<br>◆防除のポイント   |
|-------------------|---------------|------|---|
| 黒星病               | 並             | ○    | (予) キノドーフロアブル[3日,9回] 1,000倍<br>(予・治) アンビルフロアブル[7日,3回] 1,000~2,000倍<br>(予・治) ベルクートフロアブル[14日,5回] 1,500倍<br>(予・治) ミギワ20フロアブル[前日,3回] 2,000~4,000倍 等 |
| アブラムシ類            | やや少           | ○    | アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤[前日,3回] 2,000倍<br>オリオン水和剤40[3日,2回]<br>アブラムシ類,シンクイムシ類:1,000倍  |
| シンクイムシ類<br>(発生時期) | (並)           | ○    | コルト顆粒水和剤[前日,3回]<br>アブラムシ類:4,000倍 等  |
| カメムシ類             | 多             | △    | ◆ カメムシ類、シンクイムシ類の発生消長は、ホームページの情報を参考にする。<br>◆ シンクイムシ類の第2世代の幼虫を対象とする防除は、第1世代の成虫発生ピークから7~9日後が適期である。   |
| ニセナシサビダニ          | やや多           | ○    | サンマイト水和剤[21日,1回] 1,000~1,500倍 等   |
| ハダニ類              | やや多           | ○    | ダニサラバフロアブル[前日,2回] 1,000~2,000倍 等  |

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(令和6年・第3号・6月) …………… 神奈川県農業技術センター

【カキ】 生育:早(生産技術部果樹花き研究課:富有)

| 病害虫名               | 発生予報<br>(平年比) | 防除要否 | 使用する薬剤例<br>❖防除のポイント   |   |
|--------------------|---------------|------|---|---|
| 落葉病                | 並             | ○    | (予・治) スコア顆粒水和剤 [前日,3回] 3,000倍   | 等 |
| うどんこ病              | やや多           | ○    |   |   |
| コナカイガラムシ類          | —             | ○    | ダントツ水溶剤 [7日,3回] 2,000~4,000倍  | 等 |
| カメムシ類              | 多             | △    |   |   |
| カキノヘタムシガ<br>(発生時期) | (やや早)         | ○    | ダントツ水溶剤 [7日,3回] 2,000~4,000倍<br>ディアナWDG [前日,2回] 5,000~10,000倍<br>❖ カキノヘタムシガ第1世代幼虫の防除適期は、富有の開花盛期(開花率80%以上)から10日後である。 | 等 |

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

【ブドウ(大粒種)】

| 病害虫名               | 発生予報<br>(平年比) | 防除要否 | 使用する薬剤例<br>❖防除のポイント   |   |
|--------------------|---------------|------|---|---|
| べと病<br>黒とう病<br>晩腐病 | —<br>並<br>—   | ○    | (予・治) ホライズンドライフロアブル [21日,3回] べと病:2,500~5,000倍<br>黒とう病、晩腐病:2,500倍<br>☞ ホライズンは混合剤。総使用回数に注意する。<br>(予・治) カナメフロアブル [前日,3回] 黒とう病:4,000倍<br>(予・治) オンリーワンフロアブル [前日,3回] 黒とう病、晩腐病: 2,000倍 等 | 等 |
| チャノキイロ<br>アザミウマ    | —             | ○    | アディオン水和剤 [7日,5回] 2,000~4,000倍<br>アドマイヤー顆粒水和剤 [21日,2回] 5,000~10,000倍<br>ダントツ水溶剤 [前日,3回] 2,000~4,000倍<br>❖ 袋内に侵入しないように、止め金をしっかり固定する。  | 等 |
| カメムシ類              | 多             | △    | ダントツ水溶剤 [前日,3回] 2,000~4,000倍  | 等 |

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(令和6年・第3号・6月)

神奈川県農業技術センター

## 【キウイフルーツ】

| 病害虫名  | 発生予報<br>(平年比) | 防除要否 | 使用する薬剤例<br>❖防除のポイント   |
|-------|---------------|------|---|
| かいよう病 | やや少           | ○    | (予) コサイド3000 [収穫後～果実肥大期, -] 2,000倍 等<br>❖ 症状が急速に進行する場合は、かいよう病新系統の感染が疑われる。 |
| 果実軟腐病 | —             | ○    | (予・治) トップジンM水和剤 [前日, 5回] 1,000倍 等   |

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

## 【チャ】

生育：並(北相地区事務所研究課:やぶきた)

| 病害虫名             | 発生予報<br>(平年比) | 防除要否 | 使用する薬剤例<br>❖防除のポイント  |
|------------------|---------------|------|--|
| カンザワハダニ          | 並             | ○    | 【二番茶の萌芽～2葉開葉期】<br>コテツフロアブル [7日, 2回] 2,000倍<br>アグリメック [7日, 1回] 1,000倍 等 |
| チャノミドリ<br>ヒメヨコバイ | やや多           | ○    |  |
| チャノキイロ<br>アザミウマ  | やや少           | ○    |  |
| チャトゲ<br>コナジラミ    | —             | ○    |  |

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「摘採\*日前まで」を「\*日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(令和6年・第3号・6月)

神奈川県農業技術センター

## 【露地トマト】

| 病害虫名            | 発生予報<br>(平年比) | 防除要否 | 使用する薬剤例<br>◆防除のポイント   |           |        |             |        |                 |        |              |  |                |        |               |  |
|-----------------|---------------|------|---|-----------|--------|-------------|--------|-----------------|--------|--------------|--|----------------|--------|---------------|--|
| 疫病              | —             | ○    | (予) Zボルドー [—, —] 400~600倍<br>(予・治) プロポーズ顆粒水和剤 [前日, 3回] 1,000~1,500倍<br>☞ プロポーズは混合剤。総使用回数に注意する。<br>(予・治) ホライズンドライフロアブル [前日, 3回] 1,500~2,500倍<br>☞ ホライズンは混合剤。総使用回数に注意する。<br>◆ 疫病の病原菌は、気温20℃前後で活発に活動し始め、降雨が続くと激発しやすい。過繁茂、密植を避け、畑の排水を良くする。マルチなどにより、雨滴の跳ね上がりを防ぐ。   |           |        |             |        |                 |        |              |  |                |        |               |  |
| うどんこ病           | —             | ○    | (予・治) ベルクートフロアブル [前日, 3回] 2,000~4,000倍<br>(予・治) パルミノ [前日, 5回] うどんこ病: 2,000倍<br>(治) サンクリスタル乳剤 [前日, —] 300~600倍<br>(治) ベミデタッチ [前日, —] 500倍<br>◆ うどんこ病は多発してからでは防除が困難になるため、発病が確認される前から予防的に薬剤散布を行い、発病確認後はすぐに治療剤の散布を行う。   |           |        |             |        |                 |        |              |  |                |        |               |  |
| アブラムシ類          | やや少           | ○    | モベントフロアブル [前日, 3回] 2,000倍   |           |        |             |        |                 |        |              |  |                |        |               |  |
| コナジラミ類          |               |      | グレーシア乳剤 [前日, 2回]  |           |        |             |        |                 |        |              |  |                |        |               |  |
| タバココナジラミ        | 並             | ○    | アザミウマ類、コナジラミ類: 2,000倍   |           |        |             |        |                 |        |              |  |                |        |               |  |
| オンシツコナジラミ       | やや少           | ○    | チェス顆粒水和剤 [前日, 3回]   |           |        |             |        |                 |        |              |  |                |        |               |  |
|                 |               |      | アブラムシ類、コナジラミ類: 5,000倍   |           |        |             |        |                 |        |              |  |                |        |               |  |
| アザミウマ類          | やや多           | ○    | カスケード乳剤 [前日, 4回]  |           |        |             |        |                 |        |              |  |                |        |               |  |
|                 |               |      | ミカンキイロアザミウマ: 2,000倍、コナジラミ類: 4,000倍  |           |        |             |        |                 |        |              |  |                |        |               |  |
|                 |               |      | サンクリスタル乳剤 [前日, —]   |           |        |             |        |                 |        |              |  |                |        |               |  |
|                 |               |      | アブラムシ類、コナジラミ類: 300倍   |           |        |             |        |                 |        |              |  |                |        |               |  |
|                 |               |      | ベミデタッチ [前日, —] コナジラミ類: 500倍   |           |        |             |        |                 |        |              |  |                |        |               |  |
|                 |               |      | ☞ ベミデタッチは成虫飛来前や発生初期に使用し、7日間隔で複数回散布する。   |           |        |             |        |                 |        |              |  |                |        |               |  |
|                 |               |      | ◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要である。   |           |        |             |        |                 |        |              |  |                |        |               |  |
|                 |               |      | <table border="1"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>ToCV(トマト黄化病)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>CSNV(トマト茎えそ病)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 発生するウイルス病 | 媒介する害虫 | CMV等(モザイク病) | アブラムシ類 | TYLCV(トマト黄化葉巻病) | コナジラミ類 | ToCV(トマト黄化病) |  | TSWV(トマト黄化えそ病) | アザミウマ類 | CSNV(トマト茎えそ病) |  |
| 発生するウイルス病       | 媒介する害虫        |      |   |           |        |             |        |                 |        |              |  |                |        |               |  |
| CMV等(モザイク病)     | アブラムシ類        |      |   |           |        |             |        |                 |        |              |  |                |        |               |  |
| TYLCV(トマト黄化葉巻病) | コナジラミ類        |      |   |           |        |             |        |                 |        |              |  |                |        |               |  |
| ToCV(トマト黄化病)    |               |      |   |           |        |             |        |                 |        |              |  |                |        |               |  |
| TSWV(トマト黄化えそ病)  | アザミウマ類        |      |   |           |        |             |        |                 |        |              |  |                |        |               |  |
| CSNV(トマト茎えそ病)   |               |      |   |           |        |             |        |                 |        |              |  |                |        |               |  |
|                 |               |      | ◆ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処理する。  |           |        |             |        |                 |        |              |  |                |        |               |  |
| オオタバコガ          | やや多           | ○    | アニキ乳剤 [前日, 3回] 2,000倍<br>トルネードエースDF [前日, 2回] 2,000倍<br>カスケード乳剤 [前日, 4回] 2,000~4,000倍  |           |        |             |        |                 |        |              |  |                |        |               |  |

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
 [使用時期] 「収穫\* 日前まで」を「\* 日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(令和6年・第3号・6月)

神奈川県農業技術センター

## 【露地キュウリ】

| 病害虫名                      | 発生予報<br>(平年比) | 防除要否 | 使用する薬剤例<br>◆防除のポイント  |
|---------------------------|---------------|------|--|
| べと病                       | 並             | ○    | (予・治) プロポーズ顆粒水和剤 [前日,3回]<br>べと病:1,000~1,500倍、うどんこ病:1,000倍<br>☞ プロポーズは混合剤。総使用回数に注意する。   |
| うどんこ病                     | 並             | ○    | (予・治) ピシロックフロアブル [前日,3回] べと病:1,000倍<br>(予・治) ショウチノスケフロアブル [前日,2回] うどんこ病:2,000倍<br>☞ ショウチノスケは混合剤。総使用回数に注意する。<br>(予・治) パレード20フロアブル [前日,3回]<br>うどんこ病:2,000~4,000倍<br>(予・治) ベルクートフロアブル [前日,7回] うどんこ病:2,000倍<br>(治) サンクリスタル乳剤 [前日,-] うどんこ病:300~600倍 等 |
| アブラムシ類                    | やや少           | ○    | モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍<br>グレーシア乳剤 [前日,2回]<br>コナジラミ類、アザミウマ類:2,000倍  |
| コナジラミ類<br>タバコ<br>コナジラミ    | 並             | ○    | チェス顆粒水和剤 [前日,3回]<br>アブラムシ類、コナジラミ類:5,000倍   |
| オンシツ<br>コナジラミ             | やや少           | ○    | アフーム乳剤 [前日,2回]<br>コナジラミ類、アザミウマ類:2,000倍   |
| アザミウマ類<br>ミナミキイロ<br>アザミウマ | 並             | ○    | サンクリスタル乳剤 [前日,-]<br>アブラムシ類、コナジラミ類:300倍 等   |
| ミカンキイロ<br>アザミウマ           | 並             | ○    | ◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要である。  |

| 発生するウイルス病                  | 媒介する害虫 |
|----------------------------|--------|
| CMV等(モザイク病)                | アブラムシ類 |
| CCYV(退緑黄化病)                | コナジラミ類 |
| BPYV(キュウリ黄化病)              | アザミウマ類 |
| MYSV, WSMoV<br>(キュウリ黄化えそ病) | アザミウマ類 |

◆ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処理する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(令和6年・第3号・6月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【ナス】

| 病害虫名            | 発生予報<br>(平年比) | 防除要否 | 使用する薬剤例<br>◆防除のポイント  |
|-----------------|---------------|------|--|
| うどんこ病           | —             | ○    | (予)フルピカフロアブル [前日,4回] 2,000~3,000倍  |
| 灰色かび病           | —             | ○    | (予・治)ベルコートフロアブル [前日,3回] 2,000倍<br>◆発病した果実や葉は、早期に取り除きほ場の外で適切に処理する。                              |
| アブラムシ類          | やや少           | ○    | モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍   |
| アザミウマ類          |               |      | ファインセーブフロアブル [前日,3回] アザミウマ類:1,000~2,000倍   |
| ミナミキイロ<br>アザミウマ | 並             | ○    | グレーシア乳剤 [前日,2回] アザミウマ類:2,000倍<br>☞グレーシア乳剤は天敵類に影響があるので、使用に際しては注意する。                             |
| ミカンキイロ<br>アザミウマ | 並             | ○    | チェス顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類:5,000倍<br>アフーム乳剤 [前日,2回] アザミウマ類:2,000倍<br>サンクリスタル乳剤 [前日,-] アブラムシ類:300倍 |
| オオタバコガ          | やや多           | ○    | アフーム乳剤 [前日,2回] 2,000倍<br>アニキ乳剤 [前日,3回] 2,000倍<br>トルネードエースDF [前日,2回] 2,000倍                     |
| ハダニ類            | —             | ○    | コロマイト乳剤 [前日,2回] 1,500倍<br>サンクリスタル乳剤 [前日,-] 300~600倍  |

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

## 【ネギ】

| 病害虫名    | 発生予報<br>(平年比) | 防除要否 | 使用する薬剤例<br>◆防除のポイント   |
|---------|---------------|------|---|
| さび病     | —             | ○    | (予)ジマンダイセン水和剤 又は ペンコゼブ水和剤 [14日,3回] 600倍   |
| 黒斑病     | —             | ○    | (予・治)アミスター20フロアブル [3日,4回] 2,000倍<br>◆ネギは薬液をはじきやすいため、水溶剤や水和剤には展着剤を加用し、薬液が十分付着するように散布する。  |
| ネギアザミウマ | 並             | ○    | 【生育期:散布】<br>アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [3日,2回] 2000倍<br>グレーシア乳剤 [7日,2回] 2,000~3,000倍<br>アニキ乳剤 [3日,3回] 1,000倍<br>ボタニガードES [発生初期,-] 1,000倍<br>☞十分な効果の発揮には、ある程度の湿度を必要とするため、夕方あるいは曇天時や梅雨時期に散布する。<br>◆ネギは薬液をはじきやすいため、水溶剤や水和剤には展着剤を加用し、薬液が十分付着するように散布する。 |

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

# 病害虫情報

(令和6年・第3号・6月)

神奈川県農業技術センター

## ▼三浦半島地区野菜▼

### 【スイカ】

| 病虫害名   | 発生予報<br>(平年比) | 防除要否 | 使用する薬剤例<br>◆防除のポイント   |
|--------|---------------|------|---|
| つる枯病   | 並             | ○    | (予) ジマンダイセン又は ペンコゼブ水和剤<br>[7日,7回] 400～600倍  |
| 炭疽病    | 並             | ○    | (予) ダコニール1000 [3日,5回]<br>つる枯病:700～1,000倍、炭疽病:700倍<br>(予・治) ベルクート水和剤 [前日,4回] 1,000倍<br>(予・治) ロブラール水和剤 [前日,4回] つる枯病:1,000倍 等                |
| うどんこ病  | 並             | ○    | (予・治) ベルクート水和剤 [前日,4回] 1,000倍<br>(予・治) モレスタン水和剤 [3日,5回] 2,000～4,000倍<br>☞ 高温時に薬害が発生しやすいので注意する。 等  |
| アブラムシ類 | やや少           | ○    | モスピラン顆粒水溶剤 [3日,3回] 2,000～4,000倍<br>ウララDF [前日,2回] 2,000～4,000倍<br>トランスフォームフロアブル [前日,3回] 2,000倍 等   |
| アザミウマ類 | 並             | ○    | モスピラン顆粒水溶剤 [3日,3回] 2,000～4,000倍<br>アファーム乳剤 [前日,3回] 1,000～2,000倍<br>グレーシア乳剤 [前日,2回] 2,000倍<br>カスケード乳剤 [7日,4回]<br>ミナキイロアザミウマ:2,000～4,000倍 等 |
| ハダニ類   | やや多           | ○    | コロマイト乳剤 [7日,2回] 1,000倍<br>カネマイトフロアブル [前日,1回] 1,000～1,500倍 等   |

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

### 【カボチャ】

| 病虫害名   | 発生予報<br>(平年比) | 防除要否 | 使用する薬剤例<br>◆防除のポイント   |
|--------|---------------|------|---|
| 疫病     | —             | ○    | (予) Zボルドー粉剤DL [—, —] 4kg/10a<br>(予・治) フェスティバルC水和剤 [3日,3回] 1,000倍<br>(予・治) ランマンフロアブル [前日,3回] 2,000倍 等<br>◆ 薬剤散布では、地表面に接する茎や果実に薬剤が付着するように散布する。  |
| うどんこ病  | 並             | ○    | (予) イオウフロアブル [発病前～発病初期, —] 500倍<br>(予・治) ショウチノスケフロアブル [前日,2回] 2,000倍<br>☞ ショウチノスケは混合剤。総使用回数に注意する。<br>(予・治) ベルクート水和剤 [7日,4回] 1,000～2,000倍<br>(予・治) モレスタン水和剤 [3日,3回] 2,000～4,000倍<br>☞ 高温時に薬害が発生しやすいので注意する。 等 |
| アブラムシ類 | やや少           | ○    | モスピラン顆粒水溶剤 [前日,2回] 2,000～4,000倍<br>ウララDF [7日,2回] 2,000～4,000倍 等   |

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。



# 病害虫情報

(令和6年・第3号・6月)

神奈川県農業技術センター

## ▼三浦半島地区野菜▼

### 【メロン】

| 病害虫名   | 発生予報<br>(平年比) | 防除要否 | 使用する薬剤例<br>◆防除のポイント   |
|--------|---------------|------|---|
| つる枯病   | 並             | ○    | (予) ダコニール1000 [3日,5回] 1,000倍<br>(予・治) ベルクート水和剤 [前日,5回] 1,000倍<br>(予・治) ロブラール水和剤 [前日,4回] 1,000倍<br>◆ 株元の古葉を摘除して通風を図る。 等  |
| べと病    | —             | ○    | (予・治) プロポーズ顆粒水和剤 [3日,5回] 1,000倍<br>☞ プロポーズは混合剤。総使用回数に注意する。<br>(予・治) リドミルゴールドMZ [7日,3回] 1,000倍<br>☞ リドミルゴールドMZは混合剤。総使用回数に注意する。 等                                     |
| うどんこ病  | 並             | ○    | (予・治) ショウチノスケフロアブル [前日,2回] 2,000倍<br>☞ ショウチノスケは混合剤。総使用回数に注意する。<br>(予・治) ベルクート水和剤 [前日,5回] 1,000倍<br>(予・治) モレスタン水和剤 [3日,10回] 2,000～4,000倍<br>☞ 高温時に薬害が発生しやすいので注意する。 等 |
| アブラムシ類 | やや少           | ○    | モスピラン顆粒水溶剤 [3日,3回] 8,000倍<br>ウララDF [前日,2回] 2,000～4,000倍<br>トランスフォームフロアブル [前日,3回] 2,000倍 等   |
| アザミウマ類 | 多             | ○    | アフーム乳剤 [前日,2回] 1,000～2,000倍<br>グレーシア乳剤 [前日,2回] 2,000倍<br>カスケード乳剤 [7日,3回]<br>ミナキイロアザミウマ: 2,000～4,000倍 等  |
| ハダニ類   | 多             | ○    | コロマイト乳剤 [前日,2回] 1,000倍<br>カネマイトフロアブル [前日,1回] 1,000～1,500倍 等   |

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(令和6年・第3号・6月)

..... 神奈川県農業技術センター

## Ⅱ 6月の気象予報と病害虫発生予報の根拠

### (1) 6月の気象予報(気象庁 5月21日発表3か月予報)

#### 〈天 気〉

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

#### 〈要素別予報〉

|       | 低い(少ない) | 平年並み | 高い(多い) |
|-------|---------|------|--------|
| 気 温   | 20%     | 30%  | 50%    |
| 降 水 量 | 30%     | 40%  | 30%    |
| 日照時間* | 40%     | 30%  | 30%    |

\*5月23日発表1か月予報による。

### (2) 6月の病害虫発生予報の根拠

| 作物名 | 病害虫名             | 発生量 |     | 予報の根拠   |
|-----|------------------|-----|-----|---|
|     |                  | 程度  | 平年比 |   |
| 水稻  | ヒメビウンカ<br>(縞葉枯病) | 少   | 並   | 1) ヒメビウンカ越冬世代の密度は平年よりやや低い。(－)<br>2) 予察灯への誘殺は見られず、発生が平年並。(±)<br>3) ヒメビウンカ越冬世代におけるイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、平年並。(±)<br>4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)        |
|     | イネミズゾウムシ         | 少   | 並   | 1) 予察灯への誘殺数は、平年よりやや多い。(＋)<br>2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)  |
|     | ニカメイチュウ          | 少   | やや少 | 1) 前年9月の本田調査では被害が見られず、発生が平年よりやや少ない。(－)<br>2) 予察灯への誘殺は見られず、平年よりやや少ない。(－)<br>3) フェロモントラップへの誘殺は見られず、平年よりやや少ない。(－)<br>4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋) |

※「発生量」..... 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」..... (＋): 多発要因 (－): 少発要因

# 病害虫情報

(令和6年・第3号・6月) …… 神奈川県農業技術センター

| 作物名  | 病害虫名              | 発生量 |     | 予報の根拠  |
|------|-------------------|-----|-----|--|
|      |                   | 程度  | 平年比 |  |
| カンキツ | 黒点病               | 少   | 並   | 1) 県予察ほ(根府川)では、3月の樹上枯枝量が平年並。(±)<br>2) 県予察ほ(根府川)では、春葉発病が平年並。(±)<br>3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)  |
|      | そうか病              | 少   | 並   | 1) 昨年10月の巡回調査では、葉での発病が平年並。(±)<br>2) 気温は平年より高く、降水量、日照時間は平年並の予報。(±)  |
|      | かいよう病<br>(中晩柑類)   | 少   | 並   | 1) 4月の巡回調査では、越冬病斑の発病が平年並。(±)<br>2) 県予察ほ(根府川)では、春葉発病が平年並。(±)<br>3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)   |
|      | ミカンハダニ            | 少   | 並   | 1) 巡回調査では、発生が平年並。(±)<br>2) 県予察ほ(根府川)では、慣行防除区、無防除区ともに発生が平年並。(±)<br>3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)  |
| ナシ   | 黒星病               | 少   | 並   | 1) 巡回調査では、徒長枝での発病は見られず、発生が平年並。(±)<br>2) 巡回調査では、短果枝での発病は見られず、発生は平年より少ない。(－)<br>3) 県予察ほ(上吉沢)では、発病は見られず、発生が平年並。(±)<br>4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±) |
|      | アブラムシ類            | 少   | やや少 | 1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－)<br>2) 県予察ほ(上吉沢)では、寄生は見られず、発生が平年より少ない。(－)<br>3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)   |
|      | シンクイムシ類<br>(発生時期) | －   | (並) | 1) 第1世代成虫の発生ピークは、有効積算温度等によるシミュレーションから、平年並と予測される。   |
|      | ニセナシサビダニ          | 少   | やや多 | 1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋)<br>2) 県予察ほ(上吉沢)では、被害は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－)<br>3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)  |
|      | ハダニ類              | 少   | やや多 | 1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋)<br>2) 県予察ほ(上吉沢)では、寄生は見られず、発生が平年並。(±)<br>3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)  |

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」…………… (＋):多発要因 (－):少発要因  
「発生時期」…………… 早、やや早、並、やや遅、遅

# 病害虫情報

(令和6年・第3号・6月)

…… 神奈川県農業技術センター

| 作物名         | 病害虫名               | 発生量 |       | 予報の根拠   |
|-------------|--------------------|-----|-------|---|
|             |                    | 程度  | 平年比   |   |
| カキ          | 落葉病                | —   | 並     | 1) 昨年10月の巡回調査では、発生が平年並。(±)<br>2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)   |
|             | うどんこ病              | —   | やや多   | 1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+)<br>2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生が平年よりやや多い。(+)<br>3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)  |
|             | カキノヘタムシガ<br>(発生時期) | —   | (やや早) | 1) 予察灯調査では、越冬世代成虫の発生時期は平年並。(±)<br>2) 生育調査では、カキの開花が平年より早い。   |
| ブドウ         | 黒とう病               | —   | 並     | 1) 巡回調査では、発生が平年並。(±)<br>2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)   |
| キウイ<br>フルーツ | かいよう病              | 少   | やや少   | 1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(—)<br>2) 県予察ほ(根府川)では、発生が平年よりやや少ない。(—)<br>3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)  |
| 果樹全般        | カメムシ類              | —   | 多     | 1) 越冬調査では、落葉内のチャバナエオカメムシ成虫の越冬数は平年よりやや多く、カンキツ樹冠内のツヤアオカメムシ成虫の越冬数は平年より多い。(+)<br>2) ミカン花のビーティング調査では、カメムシ類の寄生は平年より多い。(+)<br>3) フェロモントラップへの誘殺数は、伊勢原、南足柄、県予察ほ(根府川)でいずれも平年より多い(+)<br>4) 予察灯への誘殺数は、県予察ほ(上吉沢、根府川)、伊勢原、山北でいずれも平年より多い(+)<br>5) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+) |
| チャ          | もち病                | 少   | 並     | 1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+)<br>2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)  |
|             | カンザワハダニ            | 少   | 並     | 1) 巡回調査では、発生が平年並。(±)<br>2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(—)<br>3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)  |
|             | チャノミドリヒメヨコバイ       | 少   | やや多   | 1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+)<br>2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年よりやや多い。(+)<br>3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)  |

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」…………… (+):多発要因 (—):少発要因

# 病害虫情報

(令和6年・第3号・6月)

…… 神奈川県農業技術センター

| 作物名        | 病害虫名                       | 発生量    |        | 予報の根拠  |
|------------|----------------------------|--------|--------|--|
|            |                            | 程度     | 平年比    |  |
| チャ         | チャノキイロアザミウマ                | 少      | やや少    | 1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－)<br>2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、被害は見られず、発生が平年並。(±)<br>3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)   |
|            | チャノホソガ                     | 少      | 並      | 1) 巡回調査では、発生が平年並。(±)<br>2) 予察灯(山北)への誘殺数は、平年よりやや少ない。(－)<br>3) フェロモントラップの誘殺数は、山北では平年並(±)、県予察ほ(寸沢嵐)では平年よりやや少ない(－)。<br>4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)             |
|            | ツマグロアオカスミカメ                | 少      | やや多    | 1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋)<br>2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)   |
|            | ハマキムシ類                     | 少      | 並      | 1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－)<br>2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、寄生は見られず、発生が平年並。(±)<br>3) フェロモントラップの誘殺数は、山北、県予察ほ(寸沢嵐)ともに平年よりやや少ない。(－)<br>4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)           |
| 露地トマト      | アザミウマ類                     | 少      | やや多    | 1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋)<br>2) 青色粘着板の捕虫数は、ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマともに平年並。(±)<br>3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)   |
| 露地<br>キュウリ | べと病                        | 少      | 並      | 1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋)<br>2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)   |
|            | うどんこ病                      | 少      | 並      | 1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±)<br>2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)  |
|            | ミナミキイロアザミウマ<br>ミカンキイロアザミウマ | 少<br>少 | 並<br>並 | 1) 巡回調査では、寄生は見られず、ミナミキイロアザミウマは平年よりやや少なく(－)、ミカンキイロアザミウマは平年並(±)。<br>2) 青色粘着板の捕虫数は、ミナミキイロアザミウマは平年よりやや多く(＋)、ミカンキイロアザミウマは平年並(±)。<br>3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋) |

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」…………… (＋):多発要因 (－):少発要因

# 病害虫情報

(令和6年・第3号・6月) …… 神奈川県農業技術センター

| 作物名                   | 病害虫名                       | 発生量    |        | 予報の根拠   |
|-----------------------|----------------------------|--------|--------|---|
|                       |                            | 程度     | 平年比    |   |
| ナス                    | ミナミキイロアザミウマ<br>ミカンキイロアザミウマ | —<br>— | 並<br>並 | 1) 露地キュウリの巡回調査では、寄生は見られず、ミナミキイロアザミウマは平年よりやや少なく(－)、ミカンキイロアザミウマは平年並(±)。<br>2) 青色粘着板の捕虫数は、ミナミキイロアザミウマは平年よりやや多く(+)、ミカンキイロアザミウマは平年並(±)。<br>3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋) |
| 露地トマト<br>露地キュウリ<br>ナス | アブラムシ類                     | —      | やや少    | 1) 巡回調査では、トマト、キュウリともに発生が平年より少ない。(－)<br>2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は、平年よりやや少ない。(－)<br>3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)   |
|                       | タバココナジラミ                   | —      | 並      | 1) 巡回調査では、トマトでは寄生は見られず、発生が平年よりやや少なく(－)、キュウリでは発生が平年並(±)。<br>2) 施設の巡回調査では、トマトでは発生が平年よりやや多く(+)、キュウリでは寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない(－)。<br>3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)         |
|                       | オンシツコナジラミ                  | —      | やや少    | 1) 巡回調査では、トマト、キュウリともに寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－)<br>2) 施設の巡回調査では、トマト、キュウリともに寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－)<br>3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)                                  |
| ネギ                    | ネギアザミウマ                    | 中      | 並      | 1) 巡回調査では、発生が平年並。(±)<br>2) 青色粘着板の捕虫数は、平年よりやや少ない。(－)<br>3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)  |
| 露地野菜<br>全般            | オオタバコガ                     | —      | やや多    | 1) フェロモントラップへの誘殺数は、横浜では平年より多く(+)、伊勢原、三浦では平年よりやや少ない(－)。<br>2) 県予察ほのフェロモントラップへの誘殺数は、上吉沢、三浦では平年よりやや多い。(＋)<br>3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)                             |

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」…………… (＋):多発要因 (－):少発要因

# 病害虫情報

(令和6年・第3号・6月)

神奈川県農業技術センター

## 三浦半島地区野菜

| 病害虫名   | 作物名                      | 発生量         |                   | 予報の根拠  |
|--------|--------------------------|-------------|-------------------|--|
|        |                          | 程度          | 平年比               |  |
| つる枯病   | (スイカ)<br>(メロン)           | 少<br>少      | 並<br>並            | 1) 巡回調査ではスイカ、メロンとも発病は見られず、発生が平年並。(±)<br>2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)  |
| 炭疽病    | (スイカ)                    | 少           | 並                 | 1) 巡回調査では発病は見られず、発生が平年並。(±)<br>2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)   |
| うどんこ病  | (スイカ)<br>(カボチャ)<br>(メロン) | 少<br>少<br>少 | 並<br>並<br>並       | 1) 巡回調査では、スイカでは発病は見られず、発生が平年並(±)、メロンとカボチャでは発病は見られず、発生が平年よりやや少ない(-)。<br>2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)           |
| アブラムシ類 | (スイカ)<br>(カボチャ)<br>(メロン) | 少<br>少<br>少 | やや少<br>やや少<br>やや少 | 1) 巡回調査では、スイカ、カボチャ、メロンともに発生が平年より少ない。(-)<br>2) 県予察ほ(三浦)の黄色水盤への飛来量は、平年より少ない。(-)<br>3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±) |
| アザミウマ類 | (スイカ)<br>(メロン)           | 少<br>中      | 並<br>多            | 1) 巡回調査では、スイカでは発生が平年並(±)、メロンでは発生が平年より多い。(+)。<br>2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)                                  |
| ハダニ類   | (スイカ)<br>(メロン)           | 中<br>中      | やや多<br>多          | 1) 巡回調査では、スイカでは発生が平年よりやや多く(+)、メロンでは発生が平年より多い(+)<br>2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)                               |

※「発生量」……………程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」……………(+):多発要因 (-):少発要因

(別表)

耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。

## ★カンキツ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(ストロビー、ファンタジスタ)
    - ▶ QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回
      - 単剤あるいはSDHI剤との混合剤(ナリア)の場合:1年1回
      - その他の殺菌剤との混用の場合:1年2回

## ★ナシ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター10、ストロビー、ファンタジスタ)
    - ▶ QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回
      - 単剤あるいはSDHI剤他との混用の場合:1年2回
    - ▶ SDHI剤(フルーツセイバー)
      - 単剤あるいはQoI剤他との混用の場合:1年2回

## ★ブドウ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(フリント、アミスター10、ストロビー、ファンタジスタ)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1年1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用や混合剤(ホライズン)の場合:1年2回
  - ▶ SDHI剤(フルーツセイバー)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1年1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用や混合剤の場合:1年2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤(レーバスフロアブル)の場合:1作1回
  - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(フェスティバルM水和剤等)の場合:1作2回

## ★チャ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー、ファンタジスタ)
    - 単剤の場合:1年1回
    - その他の殺菌剤との混用の場合:1年2回

## ★トマト★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ホライズン)の場合:1作2回
  - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス、ネクスター、パレード20)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤(トリフミン)の場合:1作2回
  - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(テーク、パンチョ)の場合:1作3回

## ★キュウリ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ファンバル、ホライズン)の場合:1作2回
  - ▶ SDHI剤(アフエット、カンタス)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合:1作1回
  - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、バトファイター)の場合:1作2回



## ★ナス★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために（以下の農薬は、病害虫情報に掲載（予定）されているものです。）

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤（アミスター20、ストロビー）
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合：1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤（アミスターオブティ、ホライズン）の場合：1作2回
  - ▶ SDHI剤（アフェット、カンタス）
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合：1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合：1作2回

## ★スイカ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために（以下の農薬は、病害虫情報に掲載（予定）されているものです。）

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤（ストロビー）
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用、混合剤（シグナム）の場合：1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤（アミスターオブティ、ホライズン）の場合：1作2回
  - ▶ SDHI剤（アフェット）
    - 単剤あるいはQoI剤との混用、混合剤（シグナム）の場合：1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合：1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤の場合：1作1回
  - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤（プロポーズ）の場合：1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤（マネージ）の場合：1作1回
  - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤（パンチョ）の場合：1作2回
  - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合：1作に単剤1回＋混用または混合剤1回

## ★カボチャ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために（以下の農薬は、病害虫情報に掲載（予定）されているものです。）

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤（ストロビー）
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用、混合剤の場合：1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤（アミスターオブティ）の場合：1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤の場合：1作1回
  - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤（フェスティバルC、プロポーズ）の場合：1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤の場合：1作1回
  - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤（パンチョ）の場合：1作2回
  - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合：1作に単剤1回＋混用または混合剤1回

## ★メロン★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために（以下の農薬は、病害虫情報に掲載（予定）されているものです。）

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤（ストロビー）
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用、混合剤の場合：1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤（アミスターオブティ、ホライズン）の場合：1作2回
  - ▶ SDHI剤（アフェット）
    - 単剤あるいはQoI剤との混用、混合剤の場合：1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合：1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤の場合：1作1回
  - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤（プロポーズ）の場合：1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤（ルビゲン）の場合：1作1回
  - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤（パンチョ）の場合：1作2回
  - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合：1作に単剤1回＋混用または混合剤1回